

【日照不足に伴う園芸作物の被害の防止】

共通事項

日照不足が続くことにより、病害が発生しやすくなることから、今後の天候の推移と生育状況に十分に注意するとともに、ほ場の観察を定期的に行い、病虫害発生予察情報や技術情報等に基づき、適時に適切な防除に努める。

野菜

- 1 長雨・日照不足により、生育・着果不良となりやすく、また、病虫害が多発しやすいので、天候の推移と生育状況に十分留意しつつ、排水対策や病虫害対策を徹底する。
- 2 日照不足により茎葉が徒長しやすいことから、病害の発生を防ぐため、早めに古葉や側枝の除去を行い、風通しと寡照下における受光を確保する。また、施肥は多肥にならないよう生育状況に応じて行う。
- 3 果菜類については、着果量に応じて摘果等を行い、株への負担を軽減する。
- 4 灌水は、過湿にならないよう回数や量に留意する。

果樹

- 1 必要に応じて、徒長枝、密生枝のせん定の実施や反射シートの設置により寡照下における受光の確保に留意する。
- 2 収穫期を迎えた品目においては適切な品質となるよう適期収穫に努める。
- 3 園地内の土壌の過湿を防ぐため、排水路の点検や園内停滞水がある場合には、溝掘りによる速やかな排水を実施する。
- 4 樹勢や果実の肥大状況に応じた摘果を実施するなど着果管理に留意する。

花き

花きについては、日照不足による軟弱徒長を防ぐため、施設栽培においては、温度や養水分等を適切に管理する。